

LIGARE

リガーレ別冊 Sep. 2012

One Way (乗り捨て) を
実現したオートリブ。

9

「One Way (乗り捨て)」を実現したフランスのカーシェアリング



One Wayを実現した オートリブの実情に迫る

日本での実現性へのアプローチは？



成熟した社会には、成熟した移動手段が必要となります。その成熟した移動手段とは何でしょうか。自分たちの子供たちが幸せに暮らせるものでなければならないのではないのでしょうか。

それは経営的に、地球環境的に、利便的に持続可能なものでなければならないはずです。

そういった視点から移動手段とそのシステムが必要であることを、日本社会はようやく真剣

に考え始めたのではないのでしょうか？この2、3年で注目されるようになった複数の人たちと車をシェアするカーシェアリングはその最たる事例だといえるのではないのでしょうか？この現象は時に自動車産業が発達した日本のような自動車大国では“若者の車離れ”と揶揄されます。

あるもので上手に使い合いつこをする。そんなに特別なことではないはずです。ものがなかった時代ではごくごく当たり前に行っていたことでは



ないでしょうか。有限であるものを共に使い、それにより自分の移動範囲や出会いが増え、自己の可能性が無限に広がっていくことに、わくわく希望をつのらせるひとたちがたくさんいることでしょう。

パリで行われている電気自動車を使ったカーシェアリングは、都市部で生活する人々の悩みに耳を傾けたものとして高く評価できます。パリ市がどのような思いやコンセプトで計画を進め

たのかを考えながら読んでいただければ、日本社会におけるわれわれの移動とはどうあるべきなのか、深く考えるきっかけとなることでしょう。

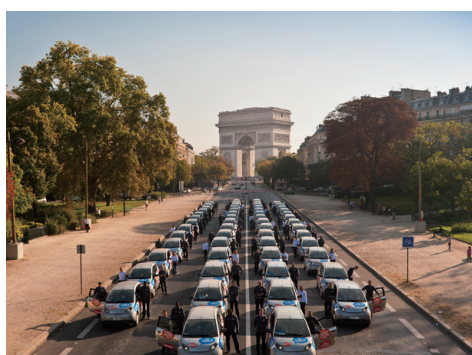
オートリブは公共事業的な 位置づけ、新しい公共交通機関。

パリ市はどのような考え方で電気自動車のみで行うカーシェアリングを始めたのだろうか。それはパリ市長 Bertrand Delanoë (ベルトラン・ドゥラノ) 氏のオートリブ開始にあたっての挨拶を解説すると見えてくる。

オートリブの広報用資料に目を通すと、まさにパリ市主導施策であることが分かる。パリ市長 Bertrand Delanoë (ベルトラン・ドゥラノ) 氏の挨拶で始まり、パリ市長の補佐であ

り autolib' syndicate (オートリブ合同協会) の所長でもある Annik Lepetit 氏、運営会社 Bolloré (ボロレ) グループの代表 Vincent Bolloré 氏の言葉と続く。

このことから、パリ市がオートリブを、バスや電車と同じ“公共交通機関”と捉えていることがわかる。これは、公共交通機関の分野における新しい考え方だ。



パリ市長あいさつから、 「Modern cityの公共交通」 を考える。



Bertrand Delanoë Mayor of Paris

パリ市長はオートリブの意義を次のように説明している。

「オートリブは2008年のパリ市民との公約であるだけでなく、世界に先駆けてEVを使ったセルフサービスのレンタルプロジェクトで、街と自動車の新たな関係を示しました。真新しく、環境に優しいモビリティであるオートリブは、全ての自動車ユーザーとその家族にサービスを提供する公共交通機関です。オートリブはまた、大都市圏の交通網と密接に結びついています。モダンシティ (Modern city) においては、市民が移動したい所へ自由に移動出来るよう、ニーズや状況に応じて、移動方法の選択肢を増やしていく義務があります。“移動の自由”を提供することにより、新しい都市生活への道を開きます。」フランスの首都圏で実施している感覚に近い。そう考えると私たち日本人にもフランス国内に与えた衝撃の大きさが想像し易いはずだ。また、この試みを見ていると「自動車の使用方法が大きな転換期を迎えた」ことを示唆しているように思える。

パリ市長は「ニーズや状況に応じた移動方法の選択肢を増やすことが、“Modern city”の義務だ」と主張する。これからの日本でも、ソフト(人やサービス)とハード(移動手段)を上手くつなぎ合わせ、いかに便利にするか?が問われるはずだ。

The launch of autolib' is a major event for Paris and its surrounding area.

Not only are we keeping the promise made to Parisians in 2008, but the delivery of this worldwide first of a wholly self-service electric vehicle rental project represents an entirely new pact between city and car.

With autolib', cars are changing to suit the city, rather than the other way round.

It's a brand new, eco-friendly mobility service, which is now being offered to all users and their families, and which completes the existing range of public transport facilities. Autolib' is the missing link in the chain of metropolitan transport. A modern city has an obligation to increase everybody's options for movement, to help them travel as they want to, depending on need or circumstance. By providing this additional level of freedom, autolib' is paving the way to a new pattern of urban living.

Autolib' is also a major technical success story : a car that is 100% electric, creates no pollution and is virtually silent. The challenge was significant, and we have risen to it, thanks to a joint

determination to pursue one of Paris' best and most ancient traditions: to be a capital of boldness and innovation.

For the 46 local authorities participating in this project, and 4 million local residents, autolib' represents a very significant step forward in the creation of "Greater Paris". Barriers are being broken down and our towns are growing that little bit closer.

Autolib' is a tool to facilitate the process of sharing and exchange between our territories, and brings the promise of modern solidarity.

Bertrand Delanoë

Mayor of Paris



雇用創出をねらう事業

もうひとつ注目すべき側面は、オートリブが“雇用創出”を目的としている点。日本で主流となっているカーシェアリングシステムは、公共事業としての位置づけではないため、効率や採算性を重視する。

莫大な設備投資に対し、いかに効率を上げられるか?が事業の明暗を分ける。従って、人件費の削減は大きな課題となる。

一方、オートリブでは、1,000人以上のス

タッフ(彼らを“ambassador: 大使”と呼ぶ)を雇用する予定で、すでに昨年1月5日の時点で、300人をパリ地域から採用している。

スタッフをわざわざ“ambassador (アンバサダー)”と呼ぶ理由について、運営会社のポロは「このシステムにおける重要な役割だから」と説明する。

便利なシステムによるオートメーション化は、人為的な作業を減らせる反面、失業問題にも

直結する。

移動の選択肢を増やし、都市部の新たなライフスタイルを提案すると同時に、雇用面にも配慮したオートリブは、バランス感覚に優れた事業だと言える。

オートリブの経費と 運営費用は？

2009年9月にパリ市長の提案で、イル・ド・フランスの自治体でつくる“Syndicat mixte Autolib（オートリブ合同協会）”が設立された。23の自治体が参加し、2010年3月には、4つの候補先から運営事業の委託先を選定した。

候補は、① SNCF(フランス国有鉄道)・RATP(パリ市交通公団)・AVIS・VINCI 連合 ② Bolloré(ボロレ)グループ③ VEOLIA 交通 ④ ADAの4つ。

2010年6月に、オートリブの運営委託先は、企業レベルでのリスク負担を考慮に入れ、経済的かつ財政的な提案が評価されたボロレに決まった。サービス委託期間は12年間。期間終了時には、「総売上高10億ユーロ以上、

年間利用者20万人」という数字を達成しなければならない制約がある。気になるのは、実際の事業に必要な費用だが、ボロレによると、この3月末現在、オートリブ事業全体のオペレーティングシステム(自動車メンテナンス、人件費や保険、電話誘導サービスなど)に、毎月8千万ユーロ程度かかっているとのこと。

また、自治体は毎月公的資金を投入している訳ではなく、ステーションの設置(車両、設置車両分の充電器、ステーション機器など)に対してのみ補助を行っている。

設置車両数により異なるが、補助額は1ステーションにつき約5万ユーロ。

	パリ市	46加盟都市	イル・ド・フランス
人口(人)	2,170,000	1,785,523	11,728,240
面積(km ²)	105	216	12,011
人口密度	20,348	10,258	976

参考資料:

パリ市とその他のオートリブ加盟48都市、イル・ド・フランス地方の人口密度